

静岡県東部地域の活性化を考える

飛躍

平成19年度のあゆみ

CONTENTS

■ ごあいさつ	3
■ 平成19年度のあゆみ	4
<hr/>	
■ 特集Ⅰ ファルマバレープロジェクト まちづくり始まる	6
<hr/>	
■ 特集Ⅱ 技能五輪国際大会 ものづくりの機運高まる	8
<hr/>	
■ 特集Ⅲ 観光振興 富士山静岡空港にらみ、広域連携強化	10
<hr/>	
■ 特集Ⅳ 広域行政の推進 道州制目前。どうなる東部の将来像	12
<hr/>	
■ 懇話会提言 沼津駅北拠点施設整備構想	14
<hr/>	
■ サンフロントから情報発信 ラジオEAST	16
新聞特集記事「風は東から」	17
<hr/>	
■ 平成20年度活動方針	18
<hr/>	
■ サンフロント21懇話会名簿	20
<hr/>	
■ 運営委員長挨拶	27

ごあいさつ



サンフロント21懇話会
代表幹事
スルガ銀行社長

岡野光喜

県東部地域の調和が取れた発展について官民一体となって自由に議論し、また交流の場を広げながら活動しているサンフロント21懇話会は昨年度、広域行政の推進、観光振興への道を探るシンポジウムや政局講演会、開幕まで4ヵ月に迫った技能五輪国際大会を前にしたデモンストレーションと討論会、さらに地域ブランドを代表する「富士ブランド」の育成と確立に向けた課題をテーマにしたシンポジウムなど、精力的な取り組みを展開してまいりました。

懇話会創設以来、これまでに行ってきた研究・提言が具体的な施策となって地域に取り入れられるケースも目に見えるようになってきました。現在、県、沼津市、都市再生機構の3者で進めている沼津駅北拠点施設整備構想がコンベンション施設と展示イベント施設を核とする整備方針として明確になり、基本計画の策定が始まりました。懇話会としても推進に向けた具体的な提言を行い、東部地区におけるコンベンション機能の充実を図るための支援を行ってまいります。コンベンションの都市間競争は激しく、特に大型イベント・コンベンション施設は全国に70ヵ所を超えるまでになっております。県内でも静岡市や浜松市が先行し、その機能を有しています。東部地区にどのようなコンベンション機能が必要なのか。地域独自の魅力を生かして競合都市との違いを創り出すためにも今後一層の知恵と工夫が求められます。

ファルマバレープロジェクトを進める富士山麓エリア（沼津市、三島市、富士市、富士宮市、長泉町）では今後も研究開発や健康関連産業の創出に力を入れ、ウェルネス分野、文化、芸術、景観がもたらす「癒し」効果もプロジェクト推進に必要なとの視点から研究し、特に、景観の癒しの中で真っ先に挙げられる富士山については世界文化遺産登録運動と関連づけながら議論を深めてまいります。

このほか、将来の「道州制」を見据えた広域行政の在り方にも注目し、合併推進をテーマとしたシンポジウムなど積極的なかわりを持っていきます。そして、いよいよ迫った「富士山静岡空港」開港を視野に入れた地域振興を本物にするためにも東部地区の観光促進が必要不可欠なものになってまいります。「富士・箱根・伊豆を東めた広域観光の促進」を掲げ、外国人観光客など多くの人を迎え入れる受け皿づくりを進め、空港効果を存分に発揮できるよう支援してまいります。会員各位のさらなるご協力をお願い致します。



静岡新聞社・静岡放送
社長

松井 純

春先からの日銀正副総裁人事や道路特定財源に関する暫定税率問題など、昨年の参院選民主党大勝による、いわゆる「ねじれ国会」は、自民党の従来の国会運営が通用しない、新しい政治の局面を迎えています。大連立構想が立ち消えとなり、民主党は今後ますます福田政権との対決色を強めていくのではないかと考えられます。年金記録や後期高齢者医療制度などの問題もあり、さらに混迷の度を深めるかもしれません。7月の北海道洞爺湖サミット後の政局が気になるところです。

国外に目を向けると、秋の米大統領選、米の信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題に端を発した金融不安、中国人民元の対ドル相場の上昇、北京五輪とチベット問題など、日本にも関係の深い米中に変化の兆しが見え始めています。とりわけ中国に進出している県内企業も多いだけに中国経済の高成長を引っ張ってきた米国向けを中心とする輸出の伸びが、サブプライムローン問題に加え、人民元上昇により急速な鈍化につながらないか、注意深く見守っていく必要があります。

サンフロント21懇話会は昨年度、県東部地域の発展に向け、技能五輪沼津国際大会や広域行政、ファルマバレープロジェクトの推進支援、富士山・伊豆地域の観光振興に官民一体となった研究、提言活動を展開してまいりました。特に予想を大幅に上回る来場者があった技能五輪国際大会は大成功に終わりました。これは会員一人ひとりの後押しによってもたらされた成果であり、一定の役割を果たすことができたと思っております。今年度は5月に「ロボカップ ジャパンオープン2008」が沼津市で開催され、地元では「ものづくり」への機運が盛り上がっています。また東部地区におけるコンベンション機能の促進では、県に事業化に向けた提言をしたところです。

国内外とも先行きに不透明感を増す中ですが、来年3月には、いよいよ「富士山静岡空港」が開港します。懇話会は「空港開港による地域振興」を活動方針の共通総合テーマに掲げました。

空港に降り立つ、アジアからのインバウンド観光客を中心とした人々を満足させることができるハード、ソフトの受け入れ態勢を東部地区に備えることが急務です。その実現に向けて懇話会活動に取り組んでまいります。今後のさらなるご協力をお願い致します。

平成19年度のあゆみ

元内閣安全保障室長
佐々 淳行

「混迷時代の危機管理」



新潟市長
篠田 昭

「新・新潟市の挑戦
「共に育つ」政令市を目指して」



JTB東日本国内商品事業部
地域統括部長
高橋 始

「魅力ある着地型旅行の充実」



プロサッカーコーチ
山本 昌邦

「サッカーが教える社員育成と
リーダーシップ論」



中小企業基盤整備機構
アドバイザー
金子 和夫

「地域ブランドの確立」



政治評論家
有馬 晴海

「これからの日本を読む」



◆19年5月

活動記録「飛躍」発行

平成18年度の活動内容をまとめた冊子「飛躍」(A4判、28頁)を発行した。内容は総会、分科会など活動の足跡をはじめ、ファルマバレープロジェクトの第2次戦略計画の新たな取り組みについて、富士山静岡空港開港に伴う観光活性化、東部観光コンベンションビューロー設立の動き、東部地区の合併による広域行政の推進など。平成19年度の活動方針も紹介した。

◆19年5月29日

19年度総会(沼津東急ホテル)

13回目となる総会には130人が出席した。岡野代表幹事や市長町長連絡会議の大橋俊二掘野市長が東部地域活性化に向けた協力を呼びかけた。記念講演は元内閣安全保障室長の佐々淳行(さっさ あつゆき)氏が「混迷時代の危機管理」と題して、都知事選やあさま山荘事件など自らの体験をまじえながら企業コンプライアンスの重要性を説いた。

◆19年7月13日

東部地区分科会(ブケ東海)

開幕まで4ヵ月となった技能五輪国際大会をにらみ「翔け匠のわざ～沼津から世界へ 技能五輪国際大会を前に～」をテーマに技能五輪で実施される3種類のデモンストレーションとパネル討論を展開した。同分科会には150人が参加し、開催地の市長として斎藤衛沼津市長は「この技能五輪大会を一つの契機に、より輝く東部地区というものの実現に向けて歩みを進めてまいりたい」とあいさつ。この後、3つの競技種目のデモンストレーションが会場で行われた。また、パネル討論では大石人士静岡経済研究所研究部長をコーディネーターに、パネリスト4氏が大会への思いや大会への期待などを語った。

◆19年9月7日

特別シンポジウム(三島市民文化会館)

「合併 新時代への道」と題して特別シンポジウムを開催。県内各所で合併論議が高まる中での開催とあって約300人の参加があった。懇話会代表挨拶をした三島市観光協会長の峰田武氏は東部地区は沼津、三島など5市4町で組織する広域都市づくり研究会が議論を重ねているが、2市2町の「東部に政令市をつくる会」も発足した。しかし、なかなかまとまらないのが現状と指摘。地域エゴを排除し、将来の東部地区をどうしたいかという観点からの議論を促した。基調講演は政令市では先輩の篠田昭新潟市長を招いた。篠田氏は「新・新潟市の挑戦「共に育つ」政令市を目指して」と題して人口81万の新しいまちづくり、そして今年4月、政令市への移行を果たすまでの経緯

を説明した。パネルディスカッションではTESS研究員の中山勝氏をコーディネーターに3市3町の首長がそれぞれの合併論を披歴。中核市なのか、一気に政令市を目指すのか、議論が分かれる結果となった。

◆19年10月9日

伊豆地区分科会 (ホテルサンパレー富士見)

伊豆地区での開催としては100人を超す参加者があり関心の高さがうかがわれた。「富士箱根伊豆 広域連携による観光戦略」と題して2部構成で実施。基調講演ではJTB東日本国内商品事業部地域統括部長の高橋始氏が「魅力ある着地型旅行の充実を」と題し全国的な視野からのマーケット分析、旅行業界における今後の消費者動向を解説。最後に地域の課題として富士、箱根、伊豆への注文が出された。特に平成21年3月に開港する富士山静岡空港をどう生かしていくかが最大の鍵を握ると指摘。2次交通も含めた新たな観光ルートの開発を求めた。2部のパネルディスカッションではTESSメンバーの青山茂氏をコーディネーターに箱根、伊豆の旅館経営者4人による議論が展開された。パネリストからはインバウンド対策やFIT対応など今後、求められる新たなスタイルに即応できるだけのノウハウの蓄積と実行が大切との発言があり、より広域な観光戦略が今、求められていることを再認識する必要性が強調された。

◆19年11月26日

運営委員会全体会 (みしまプラザホテル)

富士山静岡空港開港による地域振興を「共通総合テーマ」に置き、広域行政の推進支援、ファルマパレープロジェクトの推進支援、東部地区におけるコンベンション機能の促進、富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光の促進の以上4項目の20年度活動方針案を提示した。議論の結果、JR沼津駅北口の施設整備について懇話会としての「提言」を行うことで合意した。

◆19年11月26日

第13回全体会 (みしまプラザホテル)

プロサッカーコーチで地元出身の山本昌邦氏が「サッカーが教える社員育成とリーダーシップ論」と題して記念講演した。山本氏は映像を交え、日本のサッカーの現状や選手たちの指導方法などを熱っぽく語った。一流の選手は負けず嫌い。しかし、人の話はよく聞き、高い目標を持っている。このような選手を育てるためにはコーチが大きな目標を持つと同時に謙虚さを持つことが大事だと解説。また、選手に対して結果よりも途中のパフォーマンスをほめることが成長につながると締めくくった。

◆20年1月29日

運営委員会全体会 (スルガ銀行知求塾)

富士山静岡空港開港による地域振興を「共通総合テーマ」に置き、合併をにらんだ広域行政の推進支援、ファルマパレープロジェクトの推進支援、東部地区におけるコンベンション機能の促進、富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光の促進の20年度活動方針を確認した。2月の富士地区分科会、3月の幹事・運営委員と東部選出県議団・市長町長連絡会議合同会議、5月の総会の概要説明も行われた。

◆20年2月20日

第13回富士地区分科会 (ホテルグランド富士)

「あすの「富士ブランド」戦略」と題し、2部構成で実施。会場には140人が参加。1部では中小企業基盤整備機構アドバイザーの金子和夫氏を招き、「地域ブランドの確立」という演題で地域ブランドの先進事例の紹介や問題点を指摘。富士ブランドの今後の展開としてカテゴリー別のブランド戦略や世界に発信するシンボリックなリーディングプロジェクトの推進を訴えた。2部のパネルディスカッションでは金子氏がアドバイザーになりTESS研究員の青山茂氏がコーディネーターを務めた。4人のパネリストが富士ブランドの現況報告と、今後のビジョンとその実現に向けた課題について意見を交換した。

◆20年3月27日

幹事・運営委員と東部選出県議団・市長町長連絡会議との合同会議 (サンフロント9階ミーティングホール)

市長町長連絡会議会長の斎藤衛沼津市長が議長を務め、2つの議題について語った。1つは「平成20年度の活動方針」について。2つ目は「市長町長連絡会議の役員改選」について。サンフロント21懇話会井口運営委員長から20年度の活動方針についての説明があり、各テーマを束ねた「共通総合テーマ」の紹介と4つの活動方針(テーマ)が説明され、参加者全員からの承認を得た。役員改選に関しては小山町長の高橋宏氏の就任のほかは19年度の継続で承認された。

講演会で政治評論家の有馬晴海氏は「これからの日本を読む」と題し、野党が参院で多数を占める国会のねじれ現象について「ねじれで今まで見えなかった政治が見えるようになってきた」と述べ、福田政権を昨夏の参院選の尻拭いで野党の攻撃という嵐にも折れない「柳の枝内閣」と例えた。さらに揮発油税の暫定税率が失効すれば値下げとなるガソリンについて「1回下げたら上げるのは難しい。次の衆院選までいくのでは」と予測。「自民党内ではお祭り太郎といわれ、人気のある麻生太郎氏へのシフトが進んでいる」と説明した。



第2次戦略計画が本格化

昨年4月、平成19～22年度までの第2次戦略計画が発表されました。過去5年間に取り組んだ医療や健康、あるいは産学官連携の基盤整備の実績を踏まえ、次の5つの戦略を中心にさらなる発展を目指します。

●第2次戦略計画

- 戦略1. 患者・市民の視点に立った研究開発
- 戦略2. 新産業の創出と地域経済の活性化
- 戦略3. プロジェクトを担う人材育成
- 戦略4. 市町との協働によるまちづくり
- 戦略5. 世界に向けた展開

計画では19年度からの4年間を成長期と位置づけ、整備したシステムなどを生かし、競争的外部資金や民間資金を活用した高度な医療研究開発を進める一方、民間や市町の自発的な活動を促進します。

第2次戦略のキーワードは「産業化」と「人材育成」そして、「まちづくり」。産業化、まちづくりでは、国の競争的外部資金を獲得し、より専門的な事業が進められています。

産業化ーがん発見、診断に寄与する都市エリア事業

文部科学省「都市エリア産学官連携促進事業（発展型）」

地域の研究機関、大学などの知恵を活用して地域産業の育成を目指す、文部科学省の委託事業「都市エリア産学官連携促進事業（発展型）」。富士山麓エリア（沼津市、三島市、富士宮市、富士市、長泉町）は一般型に続き、発展型に採択されました。

発展型には国から年間2億円が3年にわたり委託されます。テーマを「ベッドサイドのニーズに応える先端的ながん診断技術の開発によるファルマバレー・メディカル（健康医療産業）クラスターの形成」とし、一般型から継続する5つの研究に医看工連携による共同研究などから新たに5つを加え、計10のテーマで実用化を目指しています。

中心となる研究は、がんの超早期発見、診断のための腫瘍マーカーの探索と診断機器の開発。また、オーダーメイド医療の実現に向けたバイオマーカー研究や免疫細胞療法の実現も図っています。

この事業からの商品化第1号として、国立遺伝学研究所が中心となって開発した抗体試薬が昨年末から発売となりました。人の生命維持に重要なたんぱく質を量ることができ、将来のがん診断薬としても大いに期待されています。



■3種類の抗体の製品化に成功

人材育成—バイオネットワーク事業

経済産業省「富士山麓ファルマバレーバイオネットワーク」

静岡がんセンター・同研究所、国立遺伝学研究所など地域の医療・研究拠点と、バイオ関連企業、ものづくり系企業をネットワーク化し、バイオ産業を支える人材の育成、新事業の創出、ベンチャー育成を図る「富士山麓ファルマバレーバイオネットワーク事業」。2年目を迎え、新たな取り組みがスタートしています。

参加企業は50社を超え、医療、食料品関係はもちろん、一般機械器具や輸送用機械器具類、木材・家具などを製造する企業まで幅広い分野が参画しています。主な活

動として、企業、大学、研究機関、金融機関などとのマッチングを図る「バイオ技術シーズ・ニ

ーズ発表会」や「**■首都圏バイオネットワーク**バイオ関連セミナー」の開催、バイオ関連分野に精通したコーディネーターが企業を訪問し、課題の掘り起こしや助言を行う「地域コーディネート活動」などを行っています。



市町との協働はじまる

まちづくり1 —加速する企業誘致活動

雄大な富士山の自然と交通至便なロケーションを持つ県東部地域には、立地の優位性から数多くの企業や研究施設が集積しています。県はさらなる東部への産業集積を目指し、ファルマバレープロジェクトを生かした誘致活動を加速さ

せています。

また、昨年6月に企業立地促進法が施行されたのを受け、東部16市町と県で基本計画策定のための研究会が発足しました。研究会では集積すべき業種や計画期間などを検討していきます。



■ファルマバレー地域に特化した企業誘致パンフレット

まちづくり2 —戦略的に企業誘致を推進

沼津市と長泉町は、共同で「ものづくりクラスター推進懇話会」を平成18年度に立ち上げました。技能五輪国際大会跡地をはじめ、国道246号をまたいで北側に広がる台地に、将来的にはファルマバレープロジェクト関連のクラスター

を形成しようと、研究、検討を始めています。沼津市ではすでに、技能五輪国際大会跡地に医療系企業2社の誘致に成功、現在は残る1区画に誘致のためのPRを展開しています。



■ものづくりクラスター推進懇話会

まちづくり3 —認知動作型トレーニング広まる

東京大学小林寛道名誉教授考案の「認知動作型トレーニング」は、歩行に重要な体幹深部筋（大腰筋など）を機器を使って効果的に鍛える手法。健康保養地づくりを進める伊東市は早くからこの手法に着目。東京大学、静岡県と協働で、豊富な温泉とマシントレーニングを組み合わせた市民向けの「健脳健身教室」を開催しました。市内の山喜旅館もトレーニングマシンを導入し、観光客向けの健康増進メニューとして

展開しています。

駿東郡清水町には本格的なトレーニングジム「スポウエル健身塾サントムン 柿田川」が開設しました。11種29台のマシンのほか、高地トレーニングと同様の効果が得られる低酸素トレーニングルームや高酸素リフレッシュルームが併設され、小学生からお年寄りまで、年代・目的に応じた幅広いメニューを提供しています。



■健脳健身教室



■健身塾オープニングセレモニー



世界の若者が集い、匠の技を競い合う技能五輪国際大会。沼津市門池を会場に約22万人の観客を動員、「ものづくり」に対する関心の高さがうかがえる大会となりました。

■ ものづくりを見直し、次代を育成。経済波及効果も大

ホストエリアとなった沼津市は、大会を通じてものづくりの大切さを見直し、地域産業の活性化と次代の技能を担う子どもたちへの啓発や教育に力を入れています。

大会期間中、国内外から訪れる方々を笑顔で迎えるために「ごきげん、ぬまづ。」市民キャンペーンをスタート。大会を盛り上げるためのスポークスマンの活用や、ポスターコンクール、ボランティア募集、1年前カウントダウンイベントを実施しました。また、市内の小中学校では、各校がサポートする国・地域を決め、子どもたちがその国・地域のことは、歴史、文化、生活習慣などを学習し、理解を深める交流事業「1校1国サポート事業」を行いました。

門池公園にはおもてなし会場を設け、お祭り広場、国際交流などのイベントを開催。閉会式会場となったキラメッセのおもてなし広場には2万人、沼津港で行った沼津港満喫祭に3万人の観客を集めました。市内のホテルが関係者の宿泊でどこも満員になるなど、地域への経済波及効果も大きい国際大会となりました。



技能五輪国際大会概要

- | | |
|-------------|---|
| 目的 | 各国・地域の青年技能者が、世界のトップを目指して国際的に幅広い分野で技能を競うことにより、参加国の職業訓練及び技能水準の向上を図る |
| 参加資格 | 大会年に22歳（一部の職種は25歳）以下の者 |
| 開催期間 | 平成19年11月15日（木曜日）～18日（日曜日）（4日間）／沼津市門池地区 |
| 競技職種 | 競技職種47職種、プレゼンテーション職種1職種計48職種 |
| 参加国 | 47カ国・地域／2,861人 |

懇話会もPRに一役

東部地区
分科会

懇話会は、7月の東部地区分科会で4カ月後に迫った技能五輪国際大会の準備状況や、大会が地域にもたらす効果について関係者によるパネルディスカッションを開催。大会に関する理解を深めました。

また、会場では技能五輪国際大会で実施される3種目のデモンストレーションが行われました。

技能五輪大会種目デモンストレーション



■洋菓子製造



■金属屋根葺き



■メカトロニクス

加速する「ものづくりによるまちづくり」

沼津市では大会を契機に、次代を担う子どもたちにものづくりの楽しさ・大切さを伝えるとともに、大会を通

して産業の振興と沼津市の魅力を広く発信するためのものづくりイベントを次々と展開していきます。

5月 ロボカップジャパンオープン2008

内容 2050年までに人間のサッカー世界チャンピオンチームに勝つことを目標に、自律型ロボットの技術向上を目指す大会

日時 5月3日(土・祝)～5日(月・祝)3日間

場所 キラメッセぬまづ、沼津市民体育館

種目 ロボカップサッカー、ロボカップレスキュー、ロボカップジュニア

共催事業 福祉・介護ロボティクス展、ものづくり工作教室 など

来場者 3万2000人

11月 ジュニアスキルズ2008

内容 子どもたちに技能五輪国際大会種目に挑戦してもらうほか、技能士の熟練技術披露、技能五輪出場選手との交流などを予定

日時 11月3日(祝)

場所 キラメッセぬまづ



■ロボットを見る
子どもたちの目は
真剣そのもの

医療産業の集積、人材育成拠点形成進む

また、大会会場となった門池地区には、県の技術専門校が進出。国立沼津高専や沼津工業技術センターなど周辺施設と連携した人材育成拠点が形成されています。大会で使用されたシステム棟2棟には医療系民間企業が入居。6月の稼働を目指して整備が進みます。ファルマバレープロジェクトや懇話会が提言したリサーチパーク構想に基づいた、産学官連携による先端的産業の育成・集積エリアとして注目を集めています。



■技能五輪跡地では医療系企業の集積が進む



観光を取り巻く状況が、近年大きな変化を迎える中、国は「観光庁」の設置を決定。静岡県では新しい空の顔、富士山静岡空港の開港に向けたカウントダウンが始まります。

■ 富士山静岡空港がいよいよ開港

平成21年3月に富士山静岡空港が開港し、国内外から多くの観光客が訪れることが期待されています。県は観光客の誘致とコンベンション機能を強化するため、20年度から産業部内に観光局を設置しました。

観光局では、魅力ある観光地づくりによる、主要マーケットである首都圏等からのリピーターの増大、富士山静岡空港の開港に合わせた北海道、九州、沖縄や東アジアからの誘客促進、コンベンション誘致の強化を重

点施策としています。

また、3年をかけ、公共施設の多言語表記の整備を進めています。広域での対応も富士・箱根・伊豆を擁する静岡・神奈川・山梨の3県でそれぞれの頭文字をとったSKY（スカイ）圏を形成、市町村サミットや県知事会談を開催し、お互いのイベント情報やマップを共同で作る予定です。

懇話会は広域連携を模索

伊豆地区分科会

懇話会は、10月の伊豆地区分科会で、富士・箱根・伊豆の広域連携による観光戦略について、パネルディスカッションを開催。地域情報の一元化や、外国人観光

客のニーズを把握した旅行商品化など、空港開港をにらんだ広域での受け皿整備のあり方を模索しました。

ロパネリスト



■ 芦の湯観光協会
川辺ハルト会長



■ 熱海市観光協会
赤尾信幸会長



■ 伊豆観光推進協議会
赤尾十五郎会長



■ 白壁荘女将
宇田優子氏



■ 緑シード
青山茂取締役副社長

■ コンベンション誘致に向けた基盤整備

東部地域コンベンションビューローが開設

昨年11月、10市町(沼津・三島・御殿場・裾野・伊豆・伊豆の国市・函南・清水・長泉・小山町)で構成する静岡県東部地域コンベンションビューローが設立されました。コンベンションビューローとは、学会や行政、企業が行う研修

会やセミナー、シンポジウム、見本市、展示会などの各種イベントを誘致、運営支援する組織です。首都圏に隣接し、交通の便もよく、多くの観光的魅力を持つ東部地域で長らく設立が熱望されてきました。

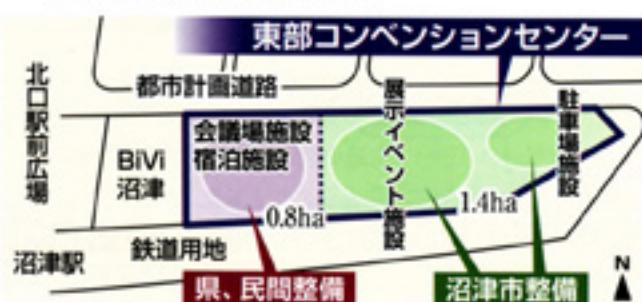
沼津駅北「東部コンベンションセンター」整備計画

懇話会の提言をきっかけに、地域の賑わいの拠点として開設したキラメッセぬまづも10年が経ち、建て替えの時期を迎えています。70%以上の稼働率を誇り、主催者のリピート率も高い特徴を持つ同施設は、すっかり地域の顔として展示イベントには欠かせない存在となりました。

県と沼津市は「東部コンベンションセンター」の整備構想を4月に発表。国際会議ができる収容1300-1000人のメイン会議室を備えた会議場と、展示会やスポーツイベントなどが開催できる展示イベント施設を中核としています。

構想では県側の建物は、会議場施設と宿泊施設など民間施設からなる複合建築物としています。会議場はメイン会議室のほか、400人程度収容の大会議室、学会の分科会やセミナーなどができる中小会議室(18室、合計1100人程度)を設けます。民間施設にはバンケット機能を備えたホテルをはじめ商業施設、マンショ

ンなどを誘致。他方、沼津市側の展示イベント施設は、キラメッセと同規模の3800平方メートル程度。広い平土間形式など利便性の高さは継承しつつ、音響や照明などを改善していきます。駐車台数500台程度の立体駐車場、ギャラリーなど市民交流施設も整備します。



■東部コンベンションセンター配置計画

着工は平成22年度を予定、年内に民間から事業提案を共同公募し、事業者を選定する予定です。

■ 地域の魅力をブラッシュアップ

伊豆ナンバー

伊豆ナンバー創設促進協議会が全国に先駆けて取り組み要望活動した伊豆ナンバーが、平成18年10月10日より導入されました。伊豆ナンバー該当地域は、三島市・熱海市・伊東市・下田市・伊豆市・伊豆の国市・東伊豆町・河津町・南伊豆町・松崎町・西伊豆町・函南町の6市6町。「伊豆はひとつ」を合言葉に、三島以南の地域で実現しました。



伊豆検定

全国各地でご当地検定が盛んに行われています。静岡県でも富士山検定に続くご当地検定として、伊豆検定が開催されました。

伊豆全域の問題が幅広く出題され、インターネットからも受験ができる無料の検定。今年から始まった検定で、第1回が2~6月、第2回が8~12月に実施されます。

伊豆
検定



かかりつけ湯

第3次募集を行い、新たに6施設が加わり53施設となりました。伊豆八十八カ所をバスで巡るモニターツアーも引き続き人気を集めています。しずおか元気応援フェアにブースを出展、県中西部にも広くかかりつけ湯の魅力をアピールしています。



県内市町合併の状況

平成20年4月8日現在



■県の構想に位置付けられた市町の組合せ

<人口1万5千未満の町を含む地区>

南伊豆地区、富士宮・芝川地区、静産地区、島田・川根地区、藤枝・岡部地区

<生活圏が一体化している地区>

富士・富士川地区、北駿地区、静岡・大井川地区、中遠地区、西部地区

<中核市を目指した合併を検討する必要がある地区>

東部地区

●構想対象地区については、地図上、実線で表示

■ 東部の状況-南伊豆地区の合併白紙に

県内では10市町が合併、または合併手続き中です。現在手続き中の組み合わせで合併した場合、県内の市町数は平成22年3月31日までに37市町(23市14町)となる見込みです。

県の市町村合併推進構想に位置づけられた市町の組み合わせのうち、人口1万5千未満の町を含む南伊豆地区

(下田市、東伊豆・河津・西伊豆・松崎・南伊豆町)では、昨年11月、西伊豆町、東伊豆町が、今年3月に松崎町が離脱し、南伊豆地区の将来は不透明な状態となっています。

一方、富士市・富士川町は法定合併協議会を設立し、今年11月1日の合併に向けた準備が進んでいます。

南伊豆地区合併の流れ

- 平成 17年4月 旧西伊豆町と旧賀茂村が合併、新西伊豆町が誕生
- 同月 合併新法が施行(22年3月まで)
- 18年3月 県が南伊豆地区1市5町合併の推進構想を策定
- 5月 南伊豆地区合併調査委員会を設置
- 19年1月 1市5町の任意協設置を協議したが、不設置。首長間の温度差埋まらず
- 11月 西伊豆町、東伊豆町が同地区の合併構想からの離脱を表明
- 12月 残る1市3町の合併構想が浮上
- 20年2月 松崎町議会が1市3町合併協設置議案を否決
- 3月 松崎町議会臨時議会で再否決
- 5月 住民発議による合併協設置議案が松崎町議会で3たび否決



政令市への道のり遠く

懇話会が特別シンポ開催

懇話会は9月に特別シンポジウム「合併 新時代への道」を開催しました。県市町村合併推進審議会が合併の枠組みとして示した3市3町（沼津・三島・裾野市、函南・清水・長泉町）の首長と、昨年4月、15市町村が合併して政令市となった新潟市の篠田昭市長がパネリストを務めました。会員をはじめ、若手経営者約300人が詰め掛け、合併に対する関心の高さがうかがわれました。

パネル討論は東部地区の合併のかぎを握る沼津市と三島市を長男、次男になぞらえて兄弟が手を結ぶことが肝要とする意見をはじめ、「3市3町の中核市を経て政令市を目指すべき」「東部には10年以内に政令市を誕生させる必要がある。スピードが不可欠で、一気に合併がいい」「3市3町でも、東部がまとまるべき。大同団結をして合併をする時期が来るのではないか」など道州制導入をにらみ、合併の必要性を強く説く意見が相次ぎました。



■熱い議論を展開した特別シンポジウム

東部広域都市づくり研究会が解散

平成11年11月、東部政令市誕生のための調査・研究を行う「東部広域都市づくり研究会」（会長・斎藤衛沼津市長）が沼津・三島・裾野市、伊豆長岡・函南・菟山・清水・長泉町の3市5町で発足しました。その後、御殿場市、小山・大仁町、戸田村を加えた4市7町1村となり、15年6月の会議では「おおむね10年後をめどに政令市を目指す」ということが確認されました。

その間、17年4月には伊豆長岡・菟山・大仁町が合併し伊豆の国市が、沼津市・戸田村が合併し新沼津市が誕生しています。

18年6月、2年4カ月ぶりに協議を再開。19年5月には沼津市など3市3町が「中核市を目指した合併を検討する必要がある地域」として県の合併推進構想に追加されました。これと前後して、研究会は何度か開催されましたが、具体的な協議には至りませんでした。

今年2月に開かれた研究会では、「政令市実現までのプロセスに一致を見出せなかった」として解散。行き詰まりを見せていた県東部の合併は、研究会の解散により、新たな枠組みによる合併が加速するとの見方も出ています。

●研究会解散後の合併に関する首長発言（静岡新聞より）

斎藤衛沼津市長 「県構想の3市3町には固執しない」	大橋俊二裾野市長 「沼津と三島では考え方が違いすぎる。一緒に合併が進まない。新3市3町（沼津・御殿場・裾野市、長泉・清水・小山町）で」	長田開蔵御殿場市長 「2市1町（御殿場・裾野市、小山町）の枠組みで合併を検討」
小池政臣三島市長 「伊豆箱根鉄道駿豆線沿線という合併の枠組みは大きな選択肢」	望月良和伊豆の国市長 「伊豆のためにみこしを担ぎたい。上に乗るのは三島であろう」	芹澤伸行函南町長 「これまで通り県が示す3市3町で」

道州制にらみ、多極分担型の都市構造を模索

先ごろ、政府の道州制ビジョン懇話会（座長・江口克彦PIIP総合研究所社長）は、「2018年までに道州制に完全に移行すべきである」とした中間報告を提出しました。道州制に移行した場合、静岡県は名古屋を中心とする中部圏か、東京を中心とする関東圏か、あるいは県を分断して両方に属するのか3つの選択肢しかありません。圏域の端にあっても地域の自主・独

立性を保つには力のある政令市がもっとも望まれる姿です。

しかし、東部の合併が期待薄で、促進する手立ても見えない中、県は東部地域の力を強めるにはネットワーク型の都市形成を進めることが有効としています。当面は合併によらず、各市町の連携により都市機能を充実させていく方向で地域の理解を得たい考えです。

懇話会提言—多極分担型地域構造の形成に向けて

コンベンション都市間競争を勝ち抜くために
沼津駅北拠点施設整備構想推進に向けた提言をおこないました。

懇話会は3月26日、石川嘉延知事に沼津駅北拠点施設整備構想についての提言を行いました。その前段で、東部はファルマバレープロジェクトを圏域形成の枠組みとした「ポリセントリシティ（多極分担型地域構造）」こそがふさわしい、としています。



SKY圏を生かすポリセントリシティの形成を

ポリセントリシティ（多極分担型地域構造）とは、地域経済活動のテリトリーに応じた地域開発戦略のこと。

ある圏域において、個人や企業が社会生活や経済活動を営む上で必要な、さまざまな機能がひとつの拠点に集中・集積するのではなく、圏域内に個性豊かな多数の拠点が存在し、それぞれが自発性・独立性を発揮しながら相互に機能を補完し、交通や情報のネットワークによる連携を図り、圏域全体で多様で高次の都市機能を発揮するとともに自立継続的な発展を可能とする地域構造の考え方です。

地方分権の先進地であるEUでは、ポリセントリシティを持つ地域の経済が活性化しています。静岡県も、全国都道府県の中でも数少ないポリセントリック型の地域構造を有する地域です。

県東部地域は、隣接県を含めれば200万人の圏域「SKY(スカイ)圏」を形成します。このSKY圏を背景に、既存の在来線や東名高速、今後完成が見込まれる新東名、東駿河湾環状道路、伊豆縦貫道路を加えたネットワークを活用した機能分担で、より満

足度の高い生活と経済の活力向上が期待できます。このように、東部は沼津を中心としたポリセントリック型地域構造を明確に位置づけることができるのです。



都市の機能分担と連携を推進

東部地域は、ファルマバレープロジェクトを圏域形成の枠組みとして、沼津市をコンベンション機能、三島市を大学・情報機能、長泉町を医療・研究機能、裾野市と御殿場市をスポーツ・健康産業集積機能と位置づけ、各地域間で相互に補完しながら、交通や情報のネットワーク、協働プロジェクトを通じて、圏域全体で高次な都市機能を提供することが可能です。



■ にぎわいの拠点「キラメッセぬまづ」

都市名	機能	機能構成要素
沼津市	コンベンション機能	大型展示施設 会議施設 ホテル 東部地域コンベンションビューロー
三島市	大学・情報機能	スポーツ・健康・福祉関連学科 MOT 教育 ファルマバレー情報センター 認知動作型トレーニングセンター
長泉町	医療・研究機能	静岡がんセンター 静岡がんセンター研究所 ファルマバレーセンター ファルマバレー長泉工業団地
裾野市 御殿場市	スポーツ・健康産業 集積機能	滞在型スポーツトレーニングセンター 医療・健康・スポーツ学者村 ホテル

■ 懇話会が提言した東部の機能分担

1000-1200人規模施設を提言



■ 懇話会が提出した提言書

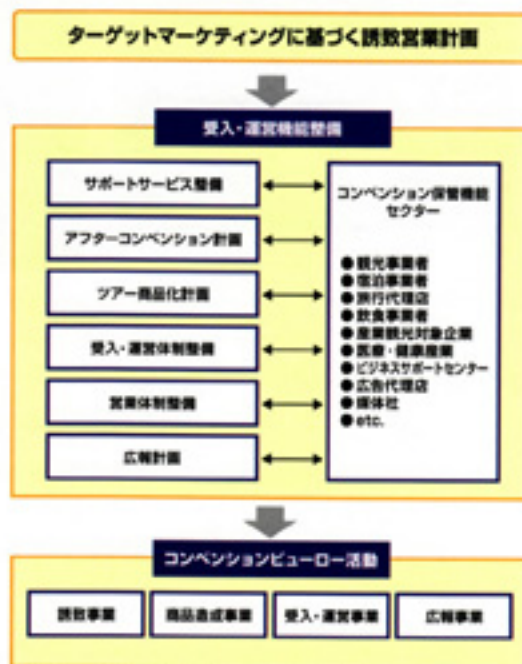
こうした地域特性を踏まえた上で、県と沼津市が基本計画の策定を進めているコンベンションや展示イベント施設を中核とする沼津駅北拠点施設整備の推進に向けた提言では、「機能と市場を絞り、先行する都市との競争に勝てる施設」とすることが大事と指摘しています。

また、「一施設の検討だけでなく、ホテルや通訳手配などサポートサービスの充実、アフターコンベンションの企画などで競合都市との違いを作り出せるかがカギ」とし、施設を売り込むより、観光や産業を含めた都市を売り込む戦略への転換が必要と強調しています。

地域特性を生かした誘致戦略では、ファルマバレープロジェクトの枠組みの中で選定すべきと提案。コンベンション施設（県）、展示イベント施設（沼津市）とともに併設するホテル・コンベンション運営などの民間事業者が連携し、利用者の視点に立った施設計画を検討することが重

要としています。

推進体制では、統一されたコンセプトのもと、官民組織の枠組みを超えた一体的な協働体制が必要とし、複合的な魅力を演出する役割はコンベンションビューローが中核を担うべきとしています。



■ コンベンション機能整備にはターゲットマーケティングが欠かせない

ラジオ EAST



www.digisbs.com/radio/program/east/

SBS ラジオ 毎週土曜日

11:00 ~ 12:55

サンフロント21懇話会が母体となり、東部・伊豆の地域情報を2時間にわたりお送りする「Radio*East」。公開放送は11回を数え、沼津の海人祭や下田の黒船祭など、地域の代表的なお祭りを多数紹介しました。10月には清水町の大型ショッピングセンター・サントムーン柿田川

にサテライトスタジオ「LISPA」が完成。リスナーだけでなく、わざわざLISPAに足を運んでくれるお客さまにも楽しめるような番組作りを模索しています。

新たな「城」・LISPAができ、スタッフ一同今までにも増して気合いが入ります！



ラジオ EAST ホームページ

番組ホームページでは、番組で取り上げた話題を写真とテキストで紹介しています。「アラウンド・ザ・イースト」をはじめ「温泉へ行こう!」「花ごよみ」各コーナーはバックナンバーも充実。東部、伊豆にお出かけの際はぜひご利用下さい。

URL <http://www.digisbs.com/radio/program/east/>



新聞特集記事「風は東から」

www.sunfront21.org/

静岡新聞東部版・朝刊

毎月 第4日曜日掲載

東部地域の活性化に向けたさまざまな取り組みや、サンフロント21懇話会の活動の一端を毎月1回、静岡新聞紙上で紹介する「風は東から」。連載10年目を迎えた本年度は、2度にわたり東部大合併に向けた各首長の本音をあぶり出す記事を掲載、好評を博しました。また、11月に行われた技能五輪国際大会についてのパネルデ

ィスカッションや、東部に建設が決まった大型コンベンション施設の課題と展望について関係者に聞きました。

3月は総括として石川嘉延知事をお迎えし、富士山静岡空港開港に向けた地域の受け皿整備の模様や、東部になぜ政令市が必要かなどについてご意見をうかがいました。



■ サンフロント21 懇話会ホームページ

懇話会活動がひと目で分かるホームページ。懇話会の設立趣旨・沿革をはじめ、新聞「風は東から」のバックナンバーや、1年間の活動をまとめた冊子「飛躍」などが閲覧できます。

URL <http://www.sunfront21.org/>

平成 20 年度活動方針

共通総合テーマ

富士山静岡空港開港による地域振興

静岡県は本州の中央に位置し、東京、名古屋、大阪の3大都市は静岡から300km圏内という好条件にある。静岡県のポテンシャルを表現するなかでも特に製造品出荷額約17兆円(国内3位)はまさに「ものづくり県・静岡」に相応しい。したがって、静岡県への企業立地件数も平成14年から3年連続第一位となっている。人口380万人で政令市を2つも持つ静岡県のパワーは益々大きくなっていくだろう。しかし、ただ成長すれば全てよしという時代は一昔前のこと。少子高齢化、年金受給者の急増、消費税上げを余儀なくされる経済状況、そして全世界的な問題となっている地球環境の保全など市民、県民を取り巻く生活は大きな変化となって渦巻いている。平成21年3月には「富士山静岡空港」が開港する。ただ単に「地方空港」ができたと喜んでいるだけでは箱もの行政の延長で終わってしまう。空港がもたらす効果をいかにして地域振興に結び付けていくかが問われる。新空港による波及効果として国内では北海道や九州、沖縄など遠隔地からの来静、海外ではアジアを中心とした観光客の来静が期待される。静岡県は農水産物、工業製品、そして豊富な観光資源など多彩な魅力にあふれている。それでは県

東部地区はどうだろうか?この魅力に合うだけのパワーを持っているだろうか。空港に降り立った来静者を満足させるものが備わっているだろうか。吸引力、誘客力、集客力をもっともっとつけていかなければ中部、西部いや山梨県にまで客を奪われてしまう。

サンフロント21懇話会では平成20年度を迎えるにあたり年間の活動方針として今回は共通総合テーマを掲げることによって県東部地区の方向性を確かなものにしていきます。そのテーマを「富士山静岡空港開港による地域振興」とした。各地区別テーマはこの共通テーマに沿った落とし込みをし、具体的かつ提言となるものにしていく。



地区別テーマ

広域行政の推進を支援

静岡市に続いて浜松市が政令市として新たな一歩を踏み出した。県都静岡市を支える両翼の東西バランスは残念ながら崩れつつある。東部地区には静岡、浜松のように求心力のある都市がない。分散型市場だから仕方がない。伊豆半島を抱えた東部市場は特殊だ。など言い出したらキリがない。関東に近い好立地をなぜ活用できないのか。箱根との観光融合はできないか。

また、市町それぞれの財政状況の良し悪しが合併の要因となることも当然あるが、それだけが判断材料になるのだろうか。地域が横断的に抱えている問題点を補完しあい生活者に安心、安全を与えることこそが広域行政のあるべき姿ではないか。今後もこうした情勢を踏まえ、足腰の強い地域づくりを目指すため、広域行政の必要性をさらに打ち出していきたい。

ファルマバレープロジェクトの推進支援

静岡県が進めるファルマバレー(富士山麓先端健康産業集積)プロジェクトは、19年度で6年目を迎え、中心となる静岡がんセンター、創業探索、治験ネットワーク、医看工連携拠点のがんセンター研究所が順調に稼働している。懇話会は、健康関連事業の有効性を認識し、引き続きプロジェクトの推進を全面的に支援していく。研究開発、健康関連産業の創出とは別に、「かかりつけ湯」や科学的手法によるトレーニングシ

ステム導入などのウェルネス分野、文化・芸術、景観がもたらす“癒し”効果もプロジェクト推進に必要な視点から研究し、特に、景観の癒しの中で真っ先に挙げられる富士山について、世界文化遺産登録運動ともリンクしながら議論を進める。また、農と食、環境、観光を組み合わせた伊豆の国市の健康増進事業、富士宮地域のフードバレー事業についても、“食と健康”“食と環境”の観点から推進に協力していく。

東部地区におけるコンベンション機能の促進

県東部地区において長年の懸案であった大型コンベンション施設の導入に向けた活動が開始された。特に県と沼津市が所有するJR沼津駅北口の土地の施設整備について、「沼津駅北拠点施設整備構想研究会」が県と沼津市に構想案を提出。現在、国際会議など大型イベントは東京、横浜の首都圏と中京圏に挟まれた静岡県は一種の空洞化を余儀なくされている。今、ここで「国際会議観光都市」宣言をし、静岡県の旗色を鮮明にしておいたほうが将来の広域行政のためにもなるだろう。構想案では県東部の広域的な交流機能を高めるため、

中核的施設として大型のコンベンション施設と、新たな展示イベント施設を導入すべきだとし、補完施設として市民交流施設や行政サービス施設、駐車場などを整備し、民間活力を導入



したホテルやマンション、オフィスなどを誘致したいとしている。県側も事業化に向けて実務的な詰めを進めたいとし前向きな反応。サンプロント21懇話会としてもこの動きに敏感に反応した活動をし、実現に向けた支援と提言を行う。

富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光の促進

伊豆はひとつの精神を持ち合わせた上でさらに広域な視点で観光を考える時代が来た。それが富士、箱根、伊豆を束ねた広域観光戦略である。それに拍車を掛ける大きな動きこそが「富士山静岡空港」の開港だ。海外からの外国人旅行者(インバウンド)と国内の北海道、九州、沖縄の遠隔地からの旅行者は静岡空港に降り立つ。そして、目的地に向かう。その目的地が一体どこなのかが重要なポイントとなる。いかに東に目を向けさせ富士、箱根、伊豆の観光にまで持っていけるかが

最大の課題ではなかろうか。国内外の有力観光地、テーマパークなどとの地域間、施設間の競争は激化する一方で、これから確固とした観光戦略を打ち出していかなければならない。さらに議論を煮詰めていく必要がある。懇話会は、前年度に引き続き、2次交通である有料道路の整備、活用なども議論し、かつての伊豆のにぎわいを取り戻す方策を考えていきたい。



Mt. FUJIエコサイクリングへの支援

日本の象徴であり、世界文化遺産の正式登録をめざす富士山において自然環境と人にやさしい自転車を使った「Mt. FUJIエコサイクリング」(財)日本サイクリング協会など主催(第1回を平成19年10月に開催)を支援し、富士山の恵みを今一度かみしめ、自然環境と人との関わり方を考えるきっかけづくりとしたい。また、自転車を通じた富士山麓への新たな観光誘致、地域振興に寄与したい。宿泊はもとより地場産品のサービスや名所旧跡めぐりなど「また今度も富士山へ」と言わ

れるようなものにしていきたい。一周約100キロものロングライドサイクリングは静岡、山梨両県をまたぐまさに壮大なスケール感があり、サイクリング愛好家たちの達成感も大いに期待できる。また、富士山静岡空港開港に伴うイベント構築ともなり「目指すは富士山」そして「エコサイクリング」との合言葉として成長させていきたい。サンプロント21懇話会として今後、日本自転車振興会に対する毎年度の予算化と日本サイクリング協会などへの提言をし、この事業をバックアップしていく。

会員名簿

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
相原 郁子	㈱新井旅館	代表取締役	植松 眞	㈱トーヨーアサノ	代表取締役
青 昭則	㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ東海	静岡支店長	植松三哉子	㈱植松	代表取締役社長
青木喜代司	青木興業㈱	代表取締役	臼井 良太	白幸産業㈱	代表取締役
青木 伸雄	静岡県総合健康センター	所長	内田 豪	㈱ダイナナ	代表取締役社長
赤尾 信幸	熱海市観光協会	会長	内田 隆久	伊豆洋らんパーク	代表取締役
赤塚 敏治	㈱西武百貨店沼津店	店長	内田 文喬	内田法律事務所	弁護士
赤堀 肇紀	赤武エンジニアリング㈱	代表取締役社長	内田 正章	富士通㈱沼津工場	工場長
秋山 佳彦	㈱秋山機器	代表取締役	内野 稔	静岡県東部農林事務所	所長
綾部 恵市	㈱綾部商店	代表取締役社長	内村 紳	東海自動車㈱	取締役社長
荒波 務	静岡県富士財務事務所	所長	内山 一美	マックスパリュウ東海㈱	代表取締役社長
飯田 悦郎	飯田工業薬品㈱	代表取締役	宇野 統彦	㈱桃中軒	社長
飯田 陽通	静岡県東部健康福祉センター	所長	梅田 豊	静岡県沼津土木事務所	所長
伊海 剛志	㈱イカイ	代表取締役社長	海老江幸栄	株式会社 虎屋	工場長
井口 修一	㈱フジスポーツ	代表取締役社長	遠藤 里美	日本ガス興業㈱	代表取締役会長
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	遠藤 忠男	㈱遠藤新聞館	代表取締役
池田 誠	池田病院	院長	遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭
池田 泰秀	静岡新聞社・静岡放送	取締役事業局長	遠藤日出夫	長泉町	町長
池谷 喜幸	㈱池谷商会	代表取締役	大石 剛	静岡新聞社	編集局長
石井 大介	㈱富陽軒	代表取締役	大石 滋	静岡新聞社	代表取締役専務
石井 直樹	下田市	市長	大塩 孝雄	貴瀬川自動車学校	取締役会長
石井 文弥	伊東観光協会	会長	太田 長八	東伊豆町	町長
石井 誠	㈱石井組	専務取締役	太田 貴久	㈱ブレーン	代表取締役
石川 智祐	㈱ジャパンビバレッジ沼津営業所	所長	大嶽 正泰	三明寺	住職
石川 三義	社会福祉法人 春風会	理事長	大竹 輝徳	静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センター	所長
石川雄一郎	石川建材工業㈱	代表取締役社長	大野 数芳	㈱大野商店	代表取締役
石田 健二	㈱CFSコーポレーション	名誉会長	大橋 俊二	裾野市	市長
石山 隆治	静岡放送	常務取締役	大村 俊之	三島信用金庫	相談役
伊藤 隆	静岡新聞社・静岡放送	東部総局部長	大村 恵紀	大村歯科医院	院長
稲葉早智子	アロマポット	代表取締役	大山 邦雄	沼津市立病院	病院長
乾 精治	スルガ銀行㈱	専務取締役	小笠原一夫	宇徳通運㈱	代表取締役社長
井上 謙吾	(財)しづか産業創造機構 ファルマラーセンター	所長	尾形 充生	㈱静岡中央銀行	取締役相談役
井上 光一	静岡県中小企業団体中央会	会長	岡野 光喜	スルガ銀行㈱	社長
井上 太	㈱北里サプライ	代表取締役社長	小川 忠晴	東京電力㈱沼津支店	支店長
井原 伸二	スルガ銀行㈱	営業本部 システムサポート	荻島 廣晃	東海食糧㈱	代表取締役社長
岩瀬 廣徳	日本製紙㈱	常務取締役	小木曾 誠	㈱富士シヤフト	代表取締役社長
岩田 均	静岡放送	ラジオ局長	刑部 治	㈱啓伸社 刑部新聞店	代表取締役
植草慎一郎	㈱康報社 植草新聞店	代表取締役社長	長田 開蔵	御殿場市	市長
上野 英房	㈱伊豆新聞本社	代表取締役社長	小野 親一	独立行政法人都市再生機構静岡東部特定庁開発事務所	所長
植松 勝一	植松勝一税理士事務所	税理士	小野 徹	小野建設㈱	代表取締役

氏名	会社名	役職
織袋 基夫	静岡県下田財務事務所	所長
賀来 裕之	積水ハウス㈱沼津支店	支店長
片山 勘	伊豆総合産業㈱	代表取締役社長
勝亦 一強	沼津魚市場㈱	代表取締役社長
勝又 高雄	日本電気㈱沼津支店	支店長
勝又 敏雄	㈱カジマヤ	代表取締役社長
勝又 規雄	ライオンファイル㈱	代表取締役社長
勝間田久嗣	二葉建設㈱	代表取締役社長
勝又 英男	㈱勝又新聞店	代表取締役
勝又 寛治	㈱沼広	取締役会長
勝間田芳廣	(学)東駿学園 御殿場西高等学校	理事長
加藤 修一	㈱加藤工務店	代表取締役
加藤 孝彦	㈱コーゲツ	代表取締役
加藤 博彦	㈱メディアクリエイト	代表取締役
加藤 昌利	㈱ホテル銀水荘	代表取締役社長
加藤瑠美子	学校法人 加藤学園	副理事長
川崎 幸雄	沼津魚仲買商協同組合	理事長
河津 市元	河津建設㈱	代表取締役社長
河原崎信幸	シンコーラミ工業㈱	代表取締役
菊地 昌久	静岡県賀茂農林事務所	所長
菊地 豊	伊豆市	市長
北岡 貴人	㈱暖香園	代表取締役社長
北村 敏廣	静岡新聞社・静岡放送	取締役社長室長
木村美都子	木村美都子税理士事務所	税理士
国重 裕三	日本興亜損害保険㈱ 静岡支店沼津支社	支社長
久保田正海	クボタコンサルタント事務所	代表
栗崎 修	野村證券㈱沼津支店	支店長
黒崎 昇	三栄レギュレーター㈱	社長
小池 政臣	三島市	市長
後藤 全弘	㈱ゴトー	会長
後藤 行宏	㈱ゴトー	代表取締役社長
小中 章義	近物レックス㈱	代表取締役社長
小西 隆司	㈱関電工静岡支店	支店長
小林 省吾	㈱小林製作所	代表取締役会長
小林 俊夫	㈱東報	代表取締役
小林 政則	スルガコンピューターサービス㈱	代表取締役社長
小見山 岳	米久㈱	取締役相談役
小室 直義	富士宮市	市長
近藤 安敏	近藤鋼材㈱	代表取締役会長

氏名	会社名	役職
近藤 良夫	近藤良夫会計事務所	所長
斉藤 克弥	ホテル・ナビレーション沼津沼津東急ホテル	総支配人
斉藤 栄	熱海市	市長
斉藤 大	伊東ガス㈱	代表取締役社長
齋藤 哲一	三幸興業㈱	代表取締役社長
齋藤 衛	沼津市	市長
齋藤 稔	㈱斉藤組	代表取締役社長
齋藤 洋	沼津三菱自動車販売㈱	代表取締役社長
佐伯 隆彰	㈱佐伯新聞店	代表取締役
櫻井 泰次	河津町	町長
佐々木 純	㈱損保ジャパン静岡支店 沼津支社	支社長
佐々木道武	大成サービス㈱浜松営業所	浜松営業所長
定居 康夫	㈱喜久多	代表取締役
佐藤三武朗	日本大学国際関係学部	学部長
佐藤 隆泰	㈱静岡銀行	常務執行役員
佐藤 秀樹	㈱リネックスサトウ	代表取締役
佐藤 秀人	東海土地建設㈱ 静岡建設部沼津支店	課長
佐藤 宗徳	㈱佐藤建設	取締役 経理部長
佐野 正幸	㈱佐野新聞店	代表取締役
澤野 幸男	スルガカード㈱	代表取締役専務
篠崎 隆	7/11(セブン-イレブン)㈱静岡沼津支店	支社長
篠原 光秋	㈱エスピーエス情報システム	代表取締役社長
庄司 睦	南駿農業協同組合	代表理事組合長
杉田 至弘	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
杉山 謙一	日本生命保険相互会社沼津支社	支社長
杉山 定久	南富士産業㈱	代表取締役社長
村主 一徳	住友生命保険相互会社沼津支社	支社長
須沢 隆弘	㈱東広	代表取締役
鈴木 和江	観音温泉	代表取締役社長
鈴木 和宏	御殿場高原ゴルフ場	代表取締役
鈴木 一雄	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
鈴木史鶴哉	南伊豆町	町長
鈴木 経康	沼津情報専門学校	校長
鈴木 尚	富士市	市長
鈴木 光好	静岡県富士土木事務所	所長
鈴木 義勝	静岡県熱海土木事務所	所長
須田 徳男	三島商工会議所	会頭
諏訪部恭一	沼津信用金庫	理事長
諏訪部照久	㈱スワベ商会	代表取締役社長

会員名簿

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
諏訪部敏之	丸善工業㈱	会長	則竹 幹隆	㈱エスピーエスプロモーション	代表取締役社長
清 哲也	㈱大石組	代表取締役社長	岩間 真人	静岡県賀茂健康福祉センター	所長
関本 文彦	東海金属工業㈱	代表取締役社長	萩原 聰治	下田商工会議所	会頭
芹澤 伸行	函南町	町長	島山 健二	㈱富士急百貨店	代表取締役
多賀 洋	総合警備保障株式会社 沼津支社	支社長	服部巖一郎	㈱チキリ	代表取締役社長
高木 一三	高木産業㈱	代表取締役会長	羽野 久雄	羽野水産㈱	代表取締役社長
高木 信	㈱テクノスジャパン	代表取締役	早川 清人	静岡ガス㈱東部支社	支社長
高田 菊平	ニューデルタ工業㈱	代表取締役社長	林 光珠	㈱甲子園	代表取締役
高橋 宏	小山町	町長	林田 充	㈱JTB 中部 沼津支店	支店長
瀬戸 博夫	静岡県熱海財務事務所	所長	原 浩之	学校法人 草学園 専門学校白寿医療学院	理事長
竹下 雅和	鹿島建設㈱静岡営業所	所長	原口 護	富士商事㈱	代表取締役
田代 武満	御殿場農業協同組合	代表理事組合長	原田 誠治	静岡新聞社	常務取締役
田代 寿夫	㈱田代新聞センター	代表取締役	一杉 真城	ヒトスギ塾	会長
谷 和実	(財)静岡総合研究機構	副理事長	兵藤 真一	東方之光	広報担当
谷川 治	静岡新聞社・静岡放送	東部総局長	日吉 公男	静岡県工業技術研究所 富士工業技術支援センター	所長
千葉 慎二	㈱AS-SZKi	代表取締役社長	平井 憲明	静岡県富士農林事務所	所長
佃 弘巳	伊東市	市長	平野 幸雄	富士通㈱静岡東部支店	支店長
辻 明久	㈱メイク・エンタープライズ	代表取締役	深澤 進	長崎町	町長
土屋 順一	東海建設㈱	代表取締役	深田 徹	スルガ総合保険㈱	代表取締役社長
土屋 正	㈱伊豆フェルメンテ	代表取締役社長	深田 保雄	㈱静岡銀行沼津支店	執行役員沼津支店長
土屋 紀雄	㈱土屋建設	代表取締役	福島 数男	東部地域支援局	局長
土屋 幹夫	㈱幹洋堂土屋新聞店	代表取締役	福田 昌明	Knt 近畿日本フーリスト沼津支店	支店長
土屋 雄二郎	雄大㈱	代表取締役	藤井 安彦	西伊豆町	町長
土屋 龍太郎	土屋建設株式会社	社長	藤浪 譲治	エスピーエスメディアサービス㈱	代表取締役社長
堤 親朗	㈱イズラシ	代表取締役	古川 喜仁	㈱エム・エス・エス	常務取締役
鳥井 明典	鳥井明典法律事務所	弁護士	別宮 章夫	大東紡エステート㈱	取締役社長
永倉 聡	沼津通運倉庫㈱	代表取締役社長	細澤 道生	静岡放送	報道制作局長
中島 勉	キリンビール株式会社	営業部長	堀内光一郎	富士急行㈱	取締役社長
中島 萌	㈱特電	代表取締役	松井 純	静岡新聞社・静岡放送	取締役社長
中島 麗子	中島水産㈱	代表取締役会長	松田 達也	ネットヨタ静岡㈱	代表取締役社長
夏目 幸次	静岡県下田土木事務所	所長	松永 憲明	賀茂地域支援局	局長
西岡 直樹	大和ハウス工業㈱沼津支店	支店長	松本 美代	㈱生漁荘	取締役 女将
西島 昭男	㈱シード	代表取締役社長	三澤 清利	特種製紙㈱	代表取締役社長
西島 洋司	医療法人社団親和会 西島病院	理事長	三澤 幸男	沼津商工会議所	専務理事
西村 嘉夫	小泉アフリカ・ライオン・サファリ㈱	専務取締役	峰田 武	三島市観光協会	会長
西山幸三郎	東海大学開発工学部	学部長	宮川 宗敏	㈱システムクリニック	代表取締役
野村 寛	芝川町	町長	宮城島安宏	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
野村 玲三	㈱野村商店	代表取締役社長	三輪 俊城	ホテル沼津キャッスル	代表取締役
野本 方子	㈱コーリキ	社長	村田 潔春	静岡新聞社・静岡放送	営業局長

●県東部市町長

氏名	会社名	役職
村野 龍市	㈱ブケ東海	代表取締役社長
村松 俊男	静岡県田子の浦港管理事務所	所長
村松 夏夫	静岡新聞社	取締役販売局長
室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役
室伏 強	三嶋観光バス	代表取締役
望月 勝広	静岡県沼津財務事務所	所長
望月 照元	西日本電信電話㈱沼津支店	支店長
望月 保身	望月法律事務所	弁護士
望月 良和	伊豆の国市	市長
森 正憲	㈱安心堂沼津店	店長
森崎 祐治	静岡コンサルタント㈱	代表取締役社長
八木 和男	㈱八木繊維	代表取締役
矢島 秋彦	大成建設㈱静岡東部営業所	所長
矢田 利雄	沼津米穀卸㈱	代表取締役社長
矢田部正巳	三嶋大社	宮司
矢部 彰造	㈱マキヤ	代表取締役
山田 憲一	㈱コスモスケアサービス	代表取締役
山本 弥之	㈱大洋社	代表取締役
山本 英一	㈱東平商会	代表取締役
山本 博保	清水町	町長
山本 誠	富士信用金庫	理事長
吉田 一好	サンデン㈱ 静岡支店	支店長
若林 久	伊豆箱根鉄道㈱	取締役社長
渡邊 晴人	東タイ㈱沼津工場	工場長
渡邊幸一郎	㈱三島新聞堂	代表取締役
渡邊 妙子	(財)佐野美術館	館長
渡邊 保	㈱トーセイコーポレーション	代表取締役
渡邊 昌信	㈱電業社機械製作所	取締役社長
渡邊 光則	㈱マキタ沼津	取締役社長
渡邊 安弘	三盛自動車販売㈱	代表取締役
渡邊 嘉子	医療法人社団満寿美会 渡辺医院	理事長・医師

氏名	市町	役職
齊藤 栄	熱海市	市長
菊池 豊	伊豆市	市長
望月 良和	伊豆の国市	市長
佃 弘巳	伊東市	市長
高橋 宏	小山町	町長
櫻井 泰次	河津町	町長
芹澤 伸行	函南町	町長
野村 寛	芝川町	町長
山本 博保	清水町	町長
石井 直樹	下田市	市長
大橋 俊二	裾野市	市長
遠藤日出夫	長泉町	町長
藤井 安彦	西伊豆町	町長
斎藤 衛	沼津市	市長
太田 長八	東伊豆町	町長
鈴木 尚	富士市	市長
小室 直義	富士宮市	市長
深澤 進	松崎町	町長
小池 政臣	三島市	市長
鈴木史鶴哉	南伊豆町	町長
長田 開蔵	御殿場市	市長

会員名簿

静岡県商工振興会

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
＜会員の交代＞					
青木 伸雄	静岡県総合健康センター	所長			
石井 文弥	伊東観光協会	会長			
岩間 真人	賀茂健康福祉センター	所長			
内野 稔	静岡県東部農林事務所	所長			
遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭			
大竹 輝徳	静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター	センター長			
小野 親一	独立行政法人都市再生機構 静岡県特定庁開発事務所	所長			
織裳 基夫	静岡県下田財務事務所	所長			
勝又 寛治	㈱沼広	代表取締役			
加藤 修一	㈱加藤工務店	代表取締役			
栗崎 修	野村證券㈱沼津支店	支店長			
小中 章義	近物レックス㈱	取締役社長			
齋藤 哲一	三幸興業㈱	代表取締役社長			
佐藤 隆泰	㈱静岡銀行	常務執行役員			
篠崎 陸	7/24ファミリー生命保険会社東海支店本部沼津支店	支社長			
杉山 謙一	日本生命保険相互会社沼津支社	支社長			
鈴木 和宏	御殿場高原ビル㈱	代表取締役			
鈴木 経康	沼津情報専門学校	校長			
鈴木 光好	静岡県富士土木事務所	所長			
鈴木 義勝	静岡県熱海土木事務所	所長			
谷 和実	(財)静岡県総合研究機構	副理事長			
夏目 幸次	静岡県下田土木事務所	所長			
野村 寛	芝川町	町長			
早川 清人	静岡ガス㈱東部支社	支社長			
林田 充	㈱JTB 中部 沼津支店	支店長			
平野 幸雄	富士通㈱静岡東部支店	支店長			
深田 保雄	㈱静岡銀行沼津支店	執行役員沼津支店長			
福島 数男	東部地域支援局	局長			
福田 昌明	近畿日本ツーリスト 沼津支店	支店長			
別宮 章夫	大東紡エステート㈱	取締役社長			
松永 憲明	賀茂地域支援局	局長			
村野 龍市	㈱ブケ東海	代表取締役社長			
望月 勝広	静岡県沼津財務事務所	所長			

幹事・委員

サンフロント21懇話会幹事(50音順、敬称略)

氏名	会社名	役職	住所
尾形 充生	㈱静岡中央銀行	取締役相談役	沼津市
岡野 光喜	スルガ銀行㈱	社長	沼津市
北岡 貴人	㈱暖香園	代表取締役社長	伊東市
佐藤 隆泰	㈱静岡銀行	常務執行役員	沼津市
小見山 岳	米久㈱	代表取締役社長	沼津市
諏訪部恭一	沼津信用金庫	理事長	沼津市
萩原 聡治	下田商工会議所	会頭	下田市
三澤 清利	特種製紙㈱	代表取締役社長	駿東郡
峰田 武	三島市観光協会	会長	三島市
矢田部正巳	三嶋大社	宮司	三島市
遠藤 敏東	富士商工会議所	会頭	富士市
石田 健二	㈱CFSコーポレーション	名誉会長	横浜市

サンフロント21懇話会運営委員(50音順、敬称略)

氏名	会社名	役職	住所
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	沼津市
池田 誠	池田病院	院長	駿東郡
内田 隆久	伊豆洋らんパーク	代表取締役	田方郡
宇野 統彦	㈱桃中軒	社長	沼津市
小野 徹	小野建設㈱	代表取締役	三島市
片山 劫	伊豆総合産業㈱	代表取締役社長	伊東市
勝又 規雄	ライオンファイル㈱	代表取締役社長	裾野市
齋藤 洋	沼津三菱自動車販売㈱	代表取締役社長	沼津市
諏訪部照久	㈱スワベ商会	代表取締役社長	駿東郡
土屋 紀雄	㈱土屋建設	代表取締役	下田市
西島 昭男	㈱シード	代表取締役社長	三島市
羽野 久雄	羽野水産㈱	代表取締役社長	沼津市
一杉 真城	ヒトスギ塾	会長	沼津市
室伏 勝宏	みしまプラザホテル	代表取締役	三島市

<地域支援局>

松永 憲明	賀茂地域支援局	局長
福島 数男	東部地域支援局	局長

<アドバイザー>

大坪 檀	静岡産業大学	学長
坂本 光司	静岡文化芸術大学文化政策学部 静岡文化芸術大学大学院	教授

<常任顧問>

伏見 一成	静岡新聞社・静岡放送	浜松総局長
篠原 光秋	㈱エスピーエス情報システム	代表取締役社長

< TESS 構成員 >

西島 昭男	㈱シード	委員長
羽野 久雄	羽野水産㈱	顧問
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	顧問
内田 隆久	伊豆洋らんパーク	委員
宇野 統彦	㈱桃中軒	委員
齋藤 洋	沼津三菱自動車販売㈱	委員
諏訪部照久	㈱スワベ商会	委員
小野 徹	小野建設㈱	委員
大石 人士	(財) 静岡経済研究所	研究員
影山 武司	(財) 静岡総合研究機構	研究員
中山 勝	(財) 企業経営研究所	研究員
青山 茂	㈱シード	研究員



平成19年度を振り返って

サンフロント21懇話会運営委員長

あさひ総合法律事務所 所長

井口 賢明

昨年、7月の参議院選挙において野党が過半数を獲得したことによる「ねじれ国会」という現象が起き、現在でもその状況が続いています。国民にとっては与野党の力が拮抗し、大いなる政策論争が繰り広げられることは望むところですが、その後、安倍首相が国会会期中に突然、退陣表明し、世間をあざんとさせました。後を引き継いだ福田内閣の支持率は下降線をたどり続けています。防衛省の天下り問題、国交省の経費無駄遣い、そして厚労省の年金問題など難題が次々と表面化し、その対策に追われているのが現在の姿です。一方、6月に起きた牛肉偽装事件以来、食品偽装が後を絶たず、消費者不在の身勝手な経営姿勢が大きな問題となっています。

そして、米国で起きたサブプライムローン問題に端を発した「サブプライム危機」が日本経済にも波紋を広げています。住宅や証券、資本還流バブルの崩壊が世界経済のリスクへと繋がっています。次に原油価格をはじめとする資源価格高騰のリスクです。米国を中心とした経済危機はわが国にも直結し、深刻な打撃を受けております。このような海外要因がわが国の景気下振れにもつながっており、一朝一夕に解決できる問題ではありません。今後は少しでも内需拡大を図り、企業には賃金の引き上げ努力を促し、さらには社会保障制度の改革の道筋を明示し、消費者の将来不安を払拭していく必要があります。

さて、サンフロント21懇話会は本年度で14年目の活動に入りましたが、19年度事業では7月に東部地区分科会として沼津市で開催まで4ヵ月となった技能五輪国際大会をにらみ「翔け匠のわざ～沼津から世界へ 技能五輪国際大会を前に～」と題してデモンストレーションとパネル討論を展開しました。9月には特別シンポジウムとして「合併 新時代への道」と題した基調講演とパネルディスカッションを開催。10月の伊豆地区分科会では「富士箱根伊豆 広域連携による観光戦略」と題したシンポジウムを2部構成で実施。来春、開港する富士山静岡空港からもたらされる効果を存分に生かすための議論が展開されました。今年2月には、富士市で「あすの「富士ブランド」戦略」と題し、地域ブランドの将来ビジョンについて様々な意見が出されました。

各地区分科会、講演会は会員の皆様方の強力なご支援、ご尽力により、いずれも順調に開催できたと感謝しております。懇話会は、本年度も魅力ある東部地域を創り出すにはどのような方策が有効か議論を深めていきます。「富士山静岡空港開港による地域振興」を懇話会の共通総合テーマとし、ファルマバレープロジェクトの推進支援をはじめ、広域行政の推進支援、富士、箱根、伊豆を東めた広域観光の促進、東部地区におけるコンベンション機能の促進、そして、Mt.FUJIエコサイクリングへの支援の5つのテーマを掲げ、大いに盛り上げていく所存であります。会員の皆様方にはこれまでの活動に対するご支援に深く感謝申し上げますと同時に、今後もさらなるご理解を賜ることができればと存じます。本年度も宜しくお願い申し上げます。



■ 発行／平成20年 5月28日
〒410-8560
沼津市魚町1番地サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送東部総局内
サンフロント21懇話会事務局
TEL.055-962-6520

<http://www.sunfront21.org/>